

ミニシリーズ：モーリタニアの砂防・植林

第1回：モーリタニアの砂防・植林事情

西アフリカの乾燥地に位置するモーリタニアはサハラ砂漠から吹き寄せる卓越風により大量の砂が供給されるため、セネガル川沿いをのぞく国土のほとんどが沙漠地帯となっている。このため砂漠地帯に点在するオアシスでは砂丘の移動や押し寄せる砂から農地、家屋を守るための砂防は必須となっており、そのための多くの植林が行われている。本ミニシリーズではタガント、アドラール州の情報を中心に、第1回目にモーリタニアの砂防・植林事情を紹介し、2回目では植林技術を紹介する。

モーリタニアにおいて本格的に砂防意識が持たれるようになったのは、1968-1973年の大旱魃の後である。飛砂・堆砂はオアシスで生活を行う地域住民に多くの問題をもたらし、日常的な生活活動および農業等に多大な影響を与えている。このため、政府支援また住民による防風・防砂用植林地造成などの対策がとられている。飛砂・堆砂の被害は、農地埋没、作物生育障害、家屋埋没、道路破損、生活環境悪化などが主要なものである。

当初の植林事業は、住民による植林事業への理解と防風・防砂による住民環境改善の有効性を示すことを目的に実施された。このため、事業実施地域はデモンストレーション効果を考え、地方の中心地や交通の便の良いような場所に選定された。その後、植林への認識が深まったことを背景に、住民参加による植林事業が実施され、植林地は住民の自発的意見を尊重して選定され、事業が行われた。また、植林事業ばかりでなく、住民の利益向上を目指し、放牧地、農地管理なども事業へ取り込められ、実施されている。

保護対象	被害
住居周辺	・家屋の埋没 ・気管支や目に入ることによる疾病増加 ・糞などの不純物の食料への混入
農地周辺	・作物生産減少・品質悪化 ・農地埋没による耕作不能地の発生 ・土壌肥沃度の劣化
道路周辺	・交通の妨げや遮断 ・交通事故の発生原因 ・道路破損
地域全体	・上記3項目の複合的被害 ・居住区、村自体の存在への影響 ・地域の農業や観光などの地場産業の影響

これまで支援国や支援機関の協力を得ながらモーリタニア政府により実施された植林は、1970年代から1997年までに765箇所、総面積6,144haで実施された。しかし植林事業の多くは当該国南部を中心に実施されており、タガント、アドラール州では全国の9%程度^{*1}（アドラール464ha、タガント222ha）と比較的少なく、砂防・植林事業の継続は今後とも要求される。現在、植林・防砂事業はオアシスに設立されているオアシス組合による住民参加型により実施されているが、オアシス組合がまだ設立されていない州については、植林事業は引き続き地域開発・環境省の直轄で実施されている。モーリタニアでは自然木の伐採は基本的に禁止されている。このため、オアシス周辺に植林された木は防風、防砂、堆砂対策のみでなく、地域の産業、生活資源（建築資材、燃料、家畜飼料、観光客の休息地など）としても活用されている。



砂丘に埋没するデーツ



家屋を守るための植林



道路を守るための植林

*1：両州の植林面積は2000年までのデータで計算した。